

2026. 8. 31



山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

（電話：083-924-2113 FAX：083-932-2817

Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。
読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

*各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。 →



★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和8年9月1日（火）10月6日（火）11：00～11：20

○会場：山口県立山口図書館 第2研修室（こどもとしょしつ 3F） ○対象：幼児 ○定員：10組程度

★令和8年度「学校図書館セミナー【第2回】」

○日時：令和8年11月12日（木）14：00～16：00

○方法：オンライン Zoom

○講師：飯田 一史 氏（出版ジャーナリスト、ライター）

○内容：講義 「10代の読書 データから見る実態と、よく読まれている本」

○対象：司書教諭、学校図書館担当教諭、学校司書、研修内容に関心のある教諭、学校図書館担当事務職員、
教育委員会指導主事、公立図書館職員 等

○参加費：無料 ○申込方法：11月5日（木）17：00までに、電子申請 （HPの要項をご覧ください。）

https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/center_annai/center_annai-28672/



【新刊紹介】価格は消費税抜き

<絵本—乳幼児から>

『きゅうり』 長谷川義史/作 アリス館 2026.6 ¥1100

みどりのきゅうりがいっぱい。ながーいきゅうりだったら「きゅーり」、ちいさくきったぶんだけ「きゅう きゅきゅ きゅ きゅうり」、まんなかでわつたら「きゅっ うりっ」。こえにだしてよんでみよう。渦巻き状になったり直角に折れ曲がったりと、次々に形を変えるきゅうりを、ユニークなおノマトペで表現。1本のきゅうりを絵と声で味わう絵本。『にんじん』と同時に刊行。

<絵本—3, 4歳から>

『とんだ』 いきさいこ/作・絵 岩崎書店 2026.6 ¥1600

はなにとまったちょうをめがけて、ねこがとんだ。おひさまがあたためたつちのなかから、もぐらがとんだ。ゆうやけのぼくじょうでうしが、はなばたけでうさぎが、とうだいにてらされたよのうみでくじらがとんだ。あじさいのはながさいて、かたつむりは…。生きる喜びを全身で表し、思いきり飛び跳ねる生きものや子どもたちの姿を、ステンシルで躍動感いっぱい描いた絵本。

<絵本—5, 6歳から>

『ふんすいみたいにいっぱいいたなら』 ノエミ・ヴォーラ/作 森敦子/訳 アチェロ 2026.6 ¥2200

えほんのはじまりから、いまにもなきだしそうなみみず。なくのなら、なみだをいろんなことにやくだててみよう。たとえば、ふんすいみたいにいっぱいいたなら、ともだちがみずあひこくる。なみだでかじをけしたり、パスタをゆでたりもできる。それに、なみだがでないとこまることはたくさんあって…。みみずと語り手のかけ合いがユーモラスな、泣くことを前向きに捉える絵本。

<絵本—小学校低学年から>

『あたまにのったタコ』 たしろちさと/作・絵 ジェニー・ギョーム/原案 講談社 2026.6 ¥1600

なつやすみにあそびにいったうみで、あたまにタコがくっついてしまったおとこのこ。どうしてもとれず、タコをのせたままでがっこうへいくことに。ずっとタコといっしょのせいかわはたいへんだけど、わるいことばかりでもない。あつというまにつぎのなつがきて、またうみへいくと…。不思議で温かな友情を描く。第2回アストラ国際絵本原作コンテスト講談社賞受賞作を絵本化。

<絵本—小学校中学年から>

『ぼくたちは、あらそうために生きるのか?』 山極寿一/文 あへ弘士/絵 偕成社 2026.6 ¥1400

約700万年前に共通の祖先からわかれたとされるヒトとゴリラ。ゴリラのくらしを研究することで、ヒトの歩みも見えてくる。戦争はヒトの本能だという人もいるがはたしてそうだろうか。共感の力がヒトの進化の鍵であることを分かりやすく伝え、平和への道筋を示す。霊長類学・人類学者の著者と、動物園に勤務していた画家による、人類への希望を込めたノンフィクション絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『ベンチのゆうれい』 マージョリー・ワインマン・シャーマット/作 小宮由/訳 早川世詩男/絵 岩波書店 2026.6

¥1500

公園の古いベンチには夜になると男の子のベンジャミンと女の子のジャスミンという二人の幽霊が現れる。二人は退屈しのぎにベンチであった出来事を順番に話して聞かせる。お話ごっこ終わりに二人がベンチに現れる理由が語られ…。相手の話に口をはさんだり次の話をせがんだりする二人のかけあいが楽しい物語。白と黒の背景色で昼夜の違いを表し、お話の雰囲気盛り上げる。

<読み物―小学校中学年から>

『こはるさんのあやとり』 麻生かづこ/作 カシワイ/絵 小峰書店 2026.7 ¥1500

お年寄りとの交流学习で訪れた老人ホームで初対面のこはるさんに「わたしのひ孫なの」と言われ、違うと言えなかった小学4年生のあかり。仲良しの結月と二人だけでこはるさんに会いに行ったことで友達の京香を怒らせてしまい…。仲直りのきっかけはこはるさんが教えてくれたあやとりだった。お年寄りとの接し方に悩むあかりがふれあいを通して相手への理解を深めていく物語。

<読み物―小学校高学年から>

『ロボット、被災地へ行く』 中松まるは/作 スカイエマ/絵 あかね書房 2026.6 ¥1500

小学5年生の悠真は能登半島地震の被災者の力になりたい一心で、自宅から遠隔操作できるロボットのユウボを被災地に向かう知り合いに託す。助けになれずもどかしい思いをしていたが、避難所の小学校でユウボの画面越しに出会った小学4年生のつむぎが遠く離れた場所へ引っ越す途中、悠真に会いに来て…。被災地とつながりながら成長する少年らの姿を描く物語。

<読み物―中学生から>

『雨色のキャンパス』 七海まち/作 小学館 2026.6 ¥1500

中学1年の少女あざみは、小学生からの親友リリカのあるひと言をきっかけに教室に入れなくなる。先生のすすめで別室登校を始めると、教室には隣のクラス的女子アナギさんがいた。二人で西洋絵画の図録を見ながら話をするうちに、あざみは世界がこれまでとは違って見えて…。少女が新たな友人関係を育む中で、次第に過去の出来事やすれ違ったままの親友にも向き合っていく物語。

<ノンフィクション―小学校低学年から>

『木は語る 平和への願いを伝える被爆樹木たち』 杉原梨江子/写真・文 大空出版 2026.6 ¥1200

「あなたは被爆樹木を知っていますか？」70年は草木も生えないと言われたヒロシマで、人々の生きる希望となった被爆樹木。その幹や樹皮に刻まれた原爆による傷あとが、8月6日の記憶を伝え続けている。被爆者や被爆樹木を守る人々から聴きとった話をもとにした文章と豊富な写真により、平和への願いを伝える写真絵本。巻末に被爆樹木リストと地図あり。

<ノンフィクション―小学校中学年から>

『救命救急センターのいちにち』 あいはらいこ/文 にしださとこ/絵 少年写真新聞社 2026.7 ¥1800

大きなけがをした人や命にかかわる病気の人たちの命を守るために、救命救急センターでは24時間365日チームみんなで力を合わせて働いている。DMAT（ディーマット）やドクターヘリの出動、手術室での手術など、救命救急の現場の様子を臨場感ある文章とくわしい絵で分かりやすく描く絵本。高校生が119番通報後に手当てを行う場面など、小中学校の保健の学習にもつながる。

<ノンフィクション―小学校高学年から>

『新聞記者、伝承者になる！ 被爆者にたくされた「空白の10年」』 中塚慧/著 かもがわ出版 2026.7 ¥1800

戦後、原爆被害の実態が広く知られることなく、行政からの支えもなく、病気や差別に苦しんだ「空白の10年」と呼ばれる期間があった。新聞記者として働きながら、広島市の被爆体験伝承者として活動する著者が、3歳の時に被爆した清水弘士さんの被爆体験と平和への思いなどを伝える。被爆者や戦争体験者の記憶をつなぎ、過去の歴史から学び続けることの大切さを伝える1冊。

<ノンフィクション―中学生から>

『13歳からの気候変動適応 暑い時代を生きる』 野田恵、丸山啓史/著 かもがわ出版 2026.7 ¥1700

猛暑や豪雨災害、農作物が育ちにくくなるなど、気候変動は私たちの暮らしにすでに変化をもたらしている。本書は気候変動が子どもの生活や健康にもたらす影響等を解説。インフラ整備や生活習慣の工夫など、気候変動に向き合い被害を減らしていくために個人や社会全体でできる適応策を具体的に紹介。環境問題を社会のあり方や公正さの問題としてとらえなおす視点も提示する。

<研究書>

『メルヘンハウス 日本で最初の子どもの本専門店』 三輪哲/[著] 工学図書 2026.6 ¥2200

1973年に29歳の三輪哲が名古屋でオープンした日本で最初の「子どもの本専門店」メルヘンハウス。「子どもたちに良い本を！」を理念とした三輪の取組は、全国の「子どもの本専門店」の誕生につながった。本書では三輪の言葉や写真、関係者の寄稿等を掲載。「子どもの本の書店史」では下関市の「こどもの広場」も登場。「子どもの本専門店」の歩みや現状、年代記もあり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC）では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
<https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/>

